

現実の都市風景に投影された未来都市のイメージ
写真表現にみる都市のイメージ形成の枠組みに関する研究

Future City's Image Found in Actual City Scape
- A Study on City Image in Photo sharing Website -

奥山研究室 13M30400 宗形 寛文 (MUNAKATA, Hirofumi)

Keywords：都市のイメージ、写真共有サイト、未来都市
city image, photo sharing website, future city

1.はじめに

私たちが抱く都市のイメージは実体験のみならずメディアによっても形成されている。近年、情報通信技術の向上および情報通信端末の高機能化を背景に、日常風景の写真とそれに関するイメージ言語が投稿される写真共有サイト^{注1)}が多くの人に利用されている。これらのサイトでは新旧の建築が対比された風景や暗闇で浮かび上がる工業地帯の風景などに対して未来都市や近未来といったタームを付した写真（以下、未来都市写真）を数多くみることができ、ここから現実の都市風景に投影された人々の未来都市に対する多様なイメージを読み取ることができると考えられる。そこで本研究では写真共有サイトにおいて投稿された未来都市写真とそれに付された言語表現を資料とし、現代社会における未来都市に対するイメージ形成の枠組みの一端を明らかにすることを目的とする。

2. 未来都市写真に付された言語表現

図1のように、写真共有サイトにおいて未来都市写真に付された言語表現からは、都市を構成するどのような要素に対して未来都市のイメージを投影しているかという着目対象と、どのような理由で未来を認識しているのかという着目根拠を読み取ることができる。そこで本章では全資料の言語表現から着目対象と着目根拠を抽出し、その内容について検討した。

2-1. 言語表現にみられる着目対象 まず着目対象は【街並】【建物系】【交通系】【広域外構】の4つに大別した(図2)。さらに【建物系】はその用途や規模の違いにより[高層建築物][大規模建築物][建築その他]の3つに分類し、【交通系】は高架か否かにより[高架交通][地上交通]の2つに分類した。次に1資料につき複数の着目対象を抽出できるものがみられたため、資料ごとの着目対象の組合せについて検討した(図3)。

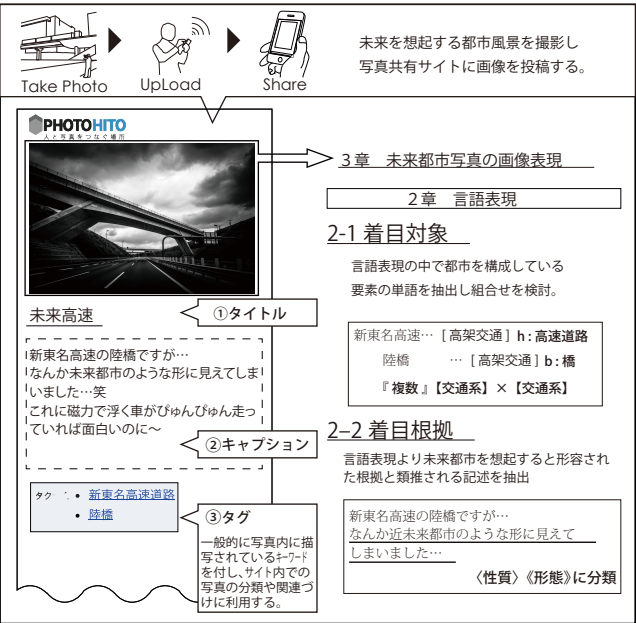


図1 資料概要及び2章の分析例

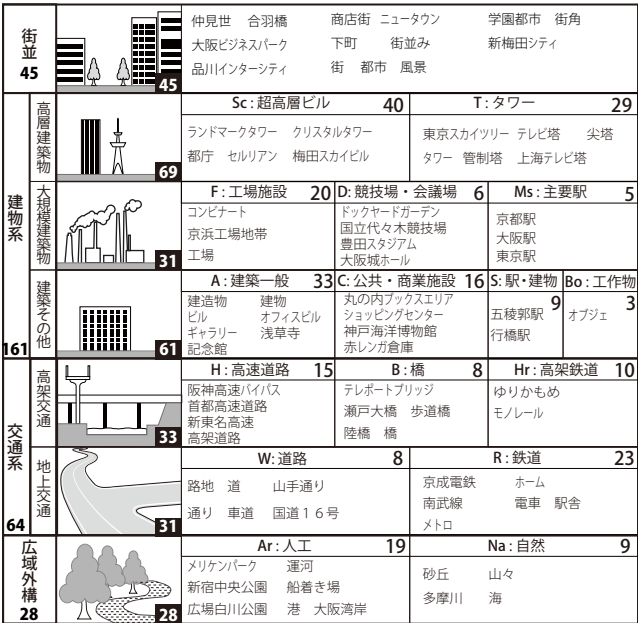


図2 着目対象

その結果、着目対象の数が単一の資料が全体の半数以上を占め(98/176)、その中でも【建物系】が多くみられた(72/176)。また、着目対象が複数の資料は【建物系×街並】【建物系×交通系】【建物系×広域外構】のように【建物系】との組合せが多かった。このことから、【建物系】を中心とした組合せによって未来都市のイメージが形成されるだけでなく、建物単体でも未来都市を認識していることが分かった。

2-2. 言語表現にみられる着目根拠 ここでは言語表現を手がかりに、未来を想起すると形容された根拠に関する記述と類推される箇所を抽出することで、未来都市がどのように認識されているか明らかにする。着目根拠の意味内容については着目対象の実体的な側面に関する〈性質〉、着目対象の一時的なあり様に関する〈状況〉、着目対象から想起された記号的イメージに関する〈意味〉の3つに大別できた。〈性質〉は《形態》《色・素材》から捉えた。《形態》には「曲線美」や「近未来的造形」などが、《色・素材》は「メタリック」や「近未来的なカラー」などがみられた。〈状況〉は《更新》《混在》《現象》から捉えた。《更新》では「工事中」、「都市の生まれ変わり」などが、《混在》では「新旧の対比」や「建物の密度」などがみられた。《現象》では「夕暮れの街並」や「ライトアップされた建物」などがみられた。〈意味〉は《退廃》《参照》から捉えた。《退廃》には「荒れ果てたビル」や「古びた要塞」など、《参照》では「SF映画に見られる近未来都市」や「手塚治虫の漫画に登場する未来都市」などがみられた。

2-3. 着目対象と着目根拠との関係 前節までに検討した着目対象と着目根拠について、それらの関係を検討するため、着目対象ごとに、着目根拠の割合を示したものが図5である。【建物系】の[建築その他]では〈性質〉が比較的多くみられた。その内訳をみると他の着目対象と比べ《色・素材》が相対的に多くみられることが分かる。このことから、日常の中にありふれた不特定な建物からもその実体を通して未来を想起させる傾向にあるといえる。[高層建築物]と[高架交通]では着目根拠に偏りがみられない。このことから、超高層ビルや高架構築物などの地面との距離をもつ要素に対して多様な未来都市のイメージが投影されているといえる。[大規模建築物][地上交通]では共に〈状況〉を根拠とするものが多くみられるが、その内訳を比較すると、前者では《現象》校舎では《混在》が多く、面的な広がりをもつ空間と線のな広がりをもつ空間にて認識に違いがあると考えられる。

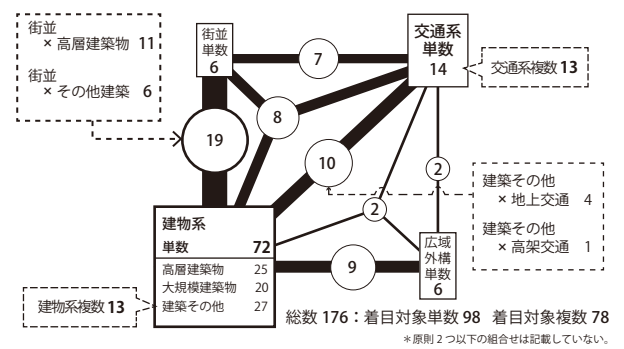


図3 着目対象の組合せ

性質	形態	沙留シティセンタービル/近未来的な曲線美に惹かれました。No1 毛綱 (省略)。近未来のデザインが強調された感じです。No10 御早高架/高層ビル市横です。曲線が近未来です。No76 近未来的な造形の東京スカイツリータウン。No87
色・素材	11	メタリックな感じが近未来の建物にも見える。No11 この管制塔の金属っぽい質感が近未来的でカッコいい。No78 真白な建物も、写真に撮るとなぜかグリーンに…近未来的なカラーです。No102 暗れている時に見るとすごく光って…近未来的な感じがします。No110
状況	更新	工業都市から環境未来都市への生まれ変わりを見守ります。No44 ビルが建つ/梅田ビヤードに近未来都市計画が進行中。No143 4月26日阿倍野が未来都市に变身だ! No148 工事中/駅前が高層ビルと工事現場しかなくて未来都市っぽかった。No175
混在	30	スカイツリーと対峙しながら (省略)。浅草の土壌風土・風俗に惹かれて いるわけではない。近未来を思わせるこの対比に惹かれる。No4 未来都市/に見えました。大きなビル群の近くに標高の高い山が。No50 高架の立体交差が未来都市のよう! そういえば、もう21世紀。No138
現象	40	闇と光が織りなす工場夜景は重厚かつ美しく未来都市No55 ライトアップされたスカイツリーが綺麗で。近未来っぽいNo88 反対側のホームの灯りが、昔思い描いていた「近未来」のイメージに似てた 黄色いひかりが近未来チックNo128
意味	退廃	大地からの警鐘/繁栄した世界、手を打たねばこうなりますよ。 近未来かもしれませんよ。No5 写った絵を見ると荒廃した近未来都市のようでした。No35 人影もまばらな街のバックに巨大な鉄塔! 非常に近未来っぽい街です 葉平。退廃的な意味でNo75
参照	51	夜のアベニハカス、近未来の要塞みたい。No161 沙留シティのこの場所は、子供の頃に読んだ手塚治虫の漫画に 登場する未来都市のようです。No41 過去のメディアに作られたイメージに着目 子供の頃に夢見た未来都市が実現した感じ。No53

図4 着目根拠の内容 注)一部の資料からは、重複して着目内容を抽出している

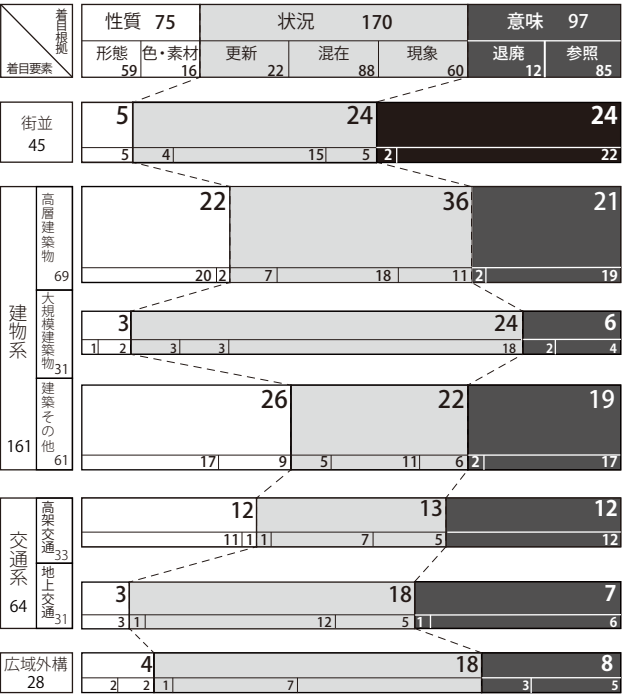


図5 着目根拠と着目対象の関係

3. 未来都市写真の画像表現

未来都市写真に描写された都市を構成する要素(以下、構成要素)をみると、それらは言語表現によって未来都市を喚起するものとして着目されるもの(以下、着目構成要素)と、その背景として環境化しているもの(以下、環境構成要素)に大別できる(図6)。本章では、まず未来都市写真の構図を整理した後、の関係および組合せを検討し、画像表現パターンを位置づけた²⁾。

3-1. 未来都市写真の構図 まず、未来都市写真の構図を捉えるために、アングルで写真が撮影されているかを検討し〔見上げ〕〔アイレベル〕〔俯瞰〕の3に整理した(図7)。その結果〔アイレベル〕が多くみられたことから、日常的な視点からの都市風景に未来都市のイメージが投影される傾向があると考えられる。

3-2. 構成要素と配列 構成要素の内容については、前章の抽出し着目対象の分類をもとに、〔街並〕〔建物系〕〔交通系〕〔広域外構〕の4つに整理した(図8)。環境構成要素は公園や港といった〔広域外構〕が多くみられ、このことから都市の中のオープンスペースを臨む広がりのある風景が未来都市のイメージに繋がしやすいものと考えられる。次に未来都市写真ごとに構成要素同士の配列について検討した(図9)。

3-3. 画像表現パターン 資料ごとに構成要素の組合せを検討し、数の多く見られた7つの組合せを画像表現パターンとして位置づけた(図10)。さらに画像表現パターンごとにアングルと構成要素の配列との関係を検討した。アングルでは〔建物系〕のみを含むパターンi、iiにおいて〔見上げ〕が多く見られた。このことは、建物の部分でさえも未来都市を想起させることを示してる。構成要素の配列では、パターンivにおいて階層がない資料が多かった。このことは自然物と人工物を対比的に並べることで未来都市を認識

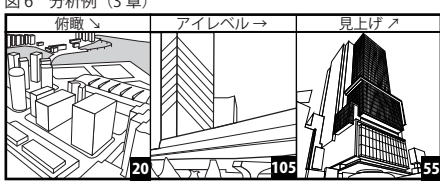
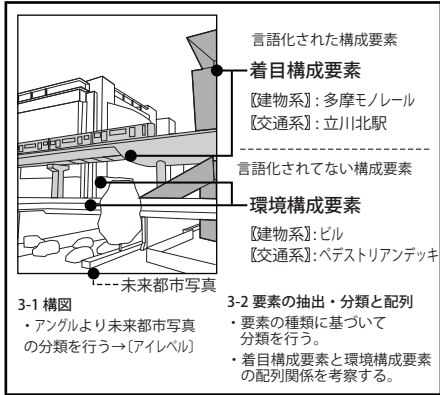


図7 未来都市写真のアングル

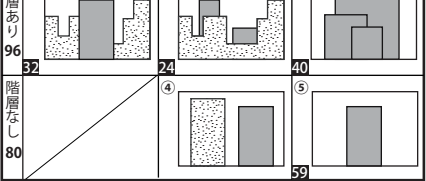
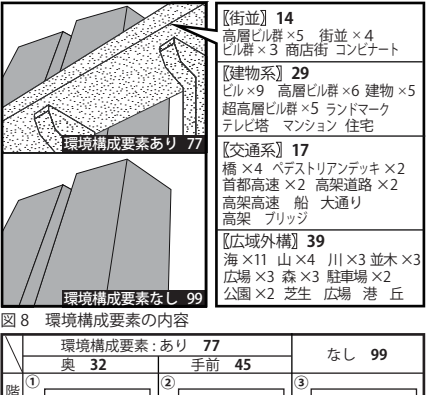


図9 構成要素の配列

していると考えられる。また、構成要素のうち、〔街並〕は広域の都市空間を対象とするため、環境構成要素の有無に関係すると考え、画像表現パターンを単独の構成要素のみであるパターンi、〔建物系〕に〔街並〕以外の構成要素が組合わさるパターンii、iii、iv、v、〔建物系〕と〔街並〕を含むパターンvi、viiの3つのグループに分けた。

4. 現実の都市風景に投影された未来都市のイメージ 本章では、前章までに検討した言語表現と未来都市写真の画像表現との関係から、現実の都市風景に投影された未来都市のイメージを検討した。画像表現パターンごとに、着目構成要素のみの資料と、着目構成要素と環境構成要素との組合せによる資料とを左右に振り分け、着目根拠の割合をそれぞれ示したのが図11である。

まずパターンiでは、数が多くみられた〈性質〉に着目すると、構成要素は〔高層建築物〕〔建築その他〕であり、それらの着目根拠は〔形態〕が多く、アングルは〔見上げ〕が多くみられた。このことから、日常的に目にする建物であっても、その部分が対象化されることで、未来都市のイメージが形成される傾向を示しているといえる。

次に、パターンii、iii、iv、vにおいては、iiの〔建物系〕×〔建物系〕は環境構成要素の有無によって偏りはみられず、着目根拠は〈状況〉が多くみられたのに対し、ii~vでは着目構成要素のみからなるものに偏りがみられ、着目根拠では〈意味〉がみられた。これより未来都市写真内で対象が複数みられる際、それが同じ種類の場合はそれを取り巻く環境によって未来都市が想起されるのに対して、他の要素が加わると多様なイメージを引用して未来都市を想起していると考えられる。

パターンvi、viiにおいては、パターンviの方が〈状況〉の割合

		アングル		配置	
		俯瞰	アイレベル	見上げ	階層あり
単独	建物系のみ	3	12	23	2
	建物系	38			36
	建物系	7	10	6	5
	建物系	17			14
	建物系	1	11	6	3
	建物系	13			21
	建物系	1	11	6	3
	建物系	13			21
	建物系	1	11	6	3
	建物系	13			21
複数	建物系	18	21	52	19
	建物系	2	17	8	7
	建物系	1	6	7	4
	建物系	1	6	7	4
	建物系	1	6	7	4
	建物系	1	6	7	4
	建物系	1	6	7	4
	建物系	1	6	7	4
	建物系	1	6	7	4
	建物系	1	6	7	4
凡例		■	■	■	■

図10 構成要素の組合せ

が多くみられ、そこに構成要素が加わると〈意味〉が多くなる傾向がみられた。このことから対象化された建築と街並は図と地の関係にあり、2つが重層して存在していることに未来都市のイメージが形成されているといえる。しかし、そこに異なる種類の対象が加わる多様な意味を生み出し、既存のイメージが添付されて未来都市と認識されているものと考えられる。

5. 結

以上、写真共有サイトにおける未来都市のイメージを写真とそれに付随する言語表現を通して検討した。その結果、単一の要素に注目して未来都市と想起しているもの、多様な要素の組合せによって未来都市を想起しているもの、街並を含み込んで未

来都市を見出している場合の3つの傾向を見出すことができた。これら未来都市を形成する要素は超高層ビルやタワーと言ったシンボルとなり得るものから、マンションや住宅など特徴をもちにくいものまで多岐にわたる。しかし、そうした要素にある特定の魅力を見出し対象を強調する場合や、異なる要素を写真内に配置しその状況を強調する場合、広域の中で環境の一部となった情景など、現実都市から見出そうとする未来都市のについて言語表現と画像から3つの側面を見出した。

参考文献
多木浩二 他: 映像の歴史哲学、2013年
五十嵐太郎 他: 僕らが夢見た未来都市、2010年
注1) 写真共有サイト: スマートフォンやデジタルカメラによって撮影された写真をインターネット上に投稿、公開するサイト。
注2) 未来都市を認識する構成要素として原則道路は抽出していないが、大通りなど、撮影者がそれを意図的に対象化したものと類推されるものについては、抽出した。

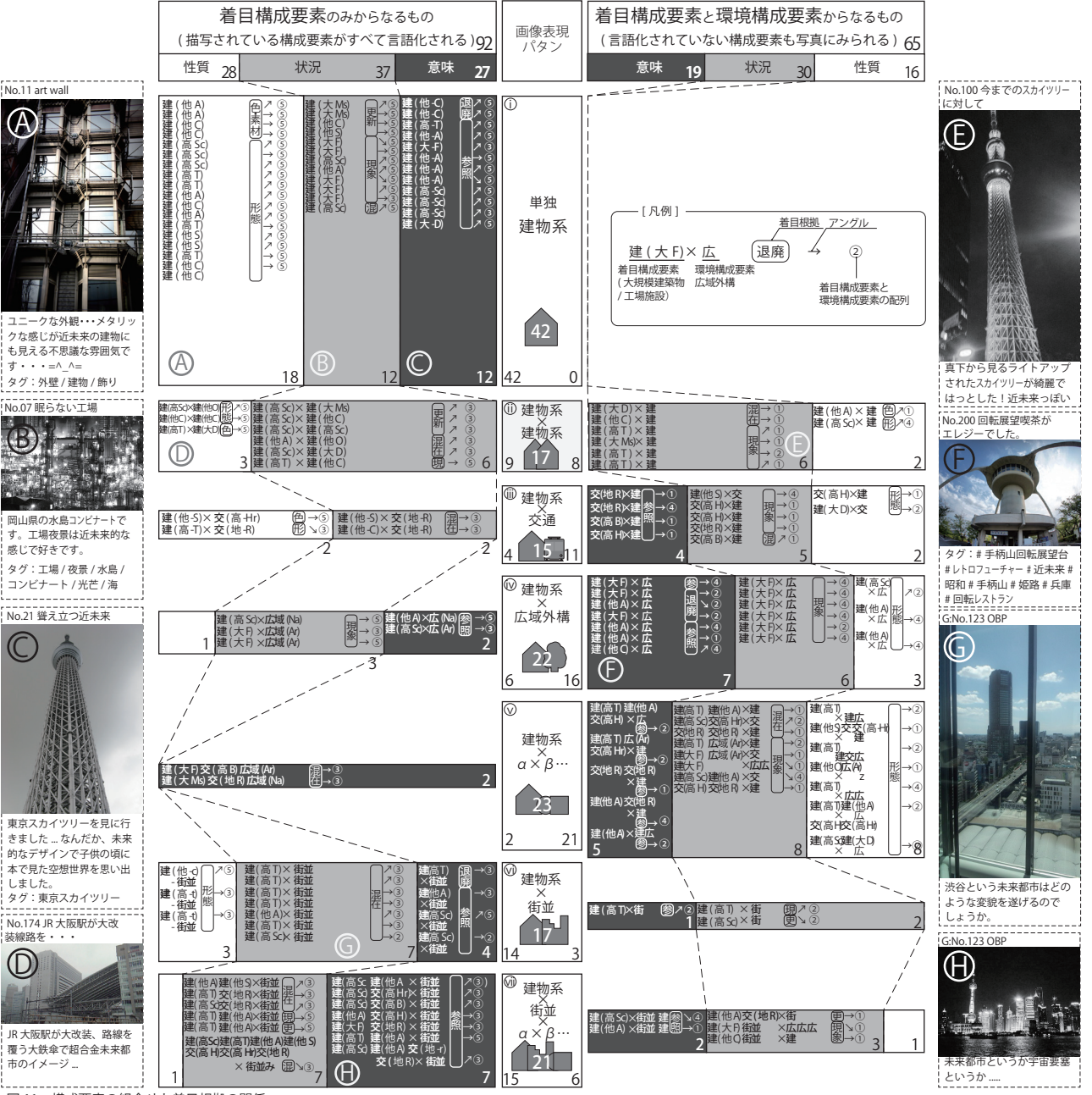


図11 構成要素の組合せと着目根拠の関係